

沖縄市交通拠点整備基本構想

令和6年6月

沖縄市 建設部 都市整備室 都市交通担当

1. はじめに	2
2. 上位・関連計画との関係	4
3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題	10
4. 整備のための方向性	23
5. 基本構想	25
6. 基本構想の実現に向けて	50

1. はじめに

1. はじめに

基本構想の目的

- 沖縄市は、沖縄本島の中央部に位置し、戦後、基地の門前町として発展してきた県内第二の人口を有するまちであり、南部圏域と北部圏域を結ぶ国道329号と国道330号が交差する交通の要衝となっています。
- 中心市街地である沖縄市胡屋・中央地区では、「魅力あふれ、選ばれ、沖縄を牽引するまちづくり」を目指した取り組みが進められています。
- 周辺の主な施設として県内最大の屋内収容人数を誇る沖縄アリーナをはじめ、県内唯一の本格的な動物園を有する沖縄こどもの国やコザ・ミュージックタウン、沖縄市戦後文化資料展示館ヒストリート、沖縄市民会館、沖縄市立総合運動場を有し、沖縄県を代表するまつりである沖縄全島エイサーまつりや、プロスポーツの公式試合、有名アーティストのコンサートが開催されるなど、中部圏域の中核都市として、その役割を担っています。
- 沖縄市胡屋・中央地区を中心に、国や県の広域道路交通施策と連携しながら、まちの賑わいを創出するための拠点づくりが求められています。
- 沖縄市交通拠点整備基本構想では、沖縄市がさらなる中核的役割を果たし、まちの活力を創出するための拠点づくりの実現に向けて、沖縄市胡屋・中央地区の交通拠点整備の基本方針を示すことを目的とします。

2. 上位・関連計画

2. 上位・関連計画

沖縄市中心市街地活性化基本計画（沖縄市）

- 沖縄市中心市街地活性化基本計画（第3期）において、**胡屋・中央地区バスターミナルの取組を位置付け**ています。

拠点施設や地域資源の魅力を活かしたにぎわい創出

①交通拠点整備促進事業

胡屋・中央地区における交通結節点整備促進に向けた合意形成と機運醸成等を図るための講演会・イベント等の開催や交通結節点周辺のまちづくりの計画策定等

②優良建築物等整備制度導入検討事業

中心市街地における優良建築物等整備制度導入の調査・検討・計画策定等

③沖縄こどもの国整備事業

沖縄こどもの国の動物舎等の整備・拡充

④文化財整備事業

越来グスクの歴史的・文化的資源の価値の保存活用及び周辺との一体的な整備

⑤3・4・沖3号線センター中央通り線相互通行化事業

センター中央通り線及び胡屋8号線における地方道路整備により、沖縄環状線からのアクセス性向上を図る

⑥沖縄市循環バス事業

中心市街地内の主要な施設や中心市街地周辺の公共交通空白地域等を循環するバスの運行

⑦商店街組織力等強化事業

中心市街地の商店街等が抱える空き店舗や賑わいの創出等の課題の解決に向けた、商店街等の組織力強化や人材育成につながる取り組みに係る費用の一部助成

⑧商店街（銀天街）活性化支援事業

コザ地区の通り会・地権者会の組織力強化やにぎわい創出の促進に向け、関係団体との意見交換やイベント開催の相談・調整、まちの担い手育成等の実施

【主な事業の位置図】



安全・安心・快適に過ごせる環境整備

⑨安慶田地区土地区画整理事業

土地区画整理事業による幹線道路や生活道路等の整備

⑩中の町地区土地区画整理事業

土地区画整理事業による幹線道路や生活道路等の整備

⑪（仮称）アーバンスポーツパーク整備事業

若年層を中心に人気を集めるアーバンスポーツ施設の整備

⑫空家等対策推進事業

空き家・不良住宅の除却、空き家の活用、関連事業等の総合的な空き家対策

2. 上位・関連計画

沿道まちづくりビジョン（案）（沖縄市）

- 本市では、「沿道まちづくりビジョン（案）」を作成しており、基本方針として、「**【交通・回遊】KOZAからモビリティを変えていく**」とし、**マイカーから多様な移動手段へのシフト、基幹バスの運行を踏まえた、コザの回遊性向上を位置づけ**、取り組みを行っています。

まちの将来像
～ 持続可能なまちの将来像 ～

古き良き KOZA の魅力を継承しながら
変化に柔軟に対応していく沿道まちづくり

KOZA PRIDE STAGE

基本方針
～ 将来像の実現に向けて ～

経済
活力

KOZA からコンテンツを生み出す

- ① 既存ストックをうまく活かしながら、“働きたい”“訪れたい”と人が集う、新たなまちの魅力・雇用を創出する。
- ② 「社会が求めている事業者」が集う舞台を目指し「若者」や「よそ者」もチャレンジしやすい環境を整える。



コザ
文化

KOZA らしさを継承する

- ① 新しいものや異なるものを柔軟に受け入れてきたウェルカム精神との中で育まれた独自の音楽・食文化を継承する。
- ② コザらしさ香る国際色豊かな空間を継承する。



交通
回遊

KOZA からモビリティを変えていく

- ① マイカーから多様な移動手段へのモデルシフトを促し、コザの回遊性を向上させる。
- ② 駐車場空間の効率的なマネジメントによる既存駐車場の有効活用を図る。



中期（国道 330 号拡幅・基幹バス開通後）

変化に柔軟に対応しながら KOZA の魅力を継承
（既存ストックの有効活用）

- ・ 国道 330 号の拡幅、基幹バスの運行にあわせ、将来変化を見据えた建替え、建物リノベーション、空地活用の実施



- ・ 既存ストックの有効活用等に合わせた暫定的、柔軟なルールなど

まちのみルール
新しい・活かしルール

用途の制限
1 階部分は店舗やカフェテラスにする等による賑わいの創出

敷地規模
コンテナや移動販売の簡易店舗等の暫定利用は許容する



空間資源の有効活用
歴史的な賑わいを創出するため、簡易店舗等による有効活用

空間の居心地
ベンチやテント等を設置し、憩いの空間の創出に努める

空間でのコンテンツの提供
リノベーションなど、賑わいを創出するための有効活用

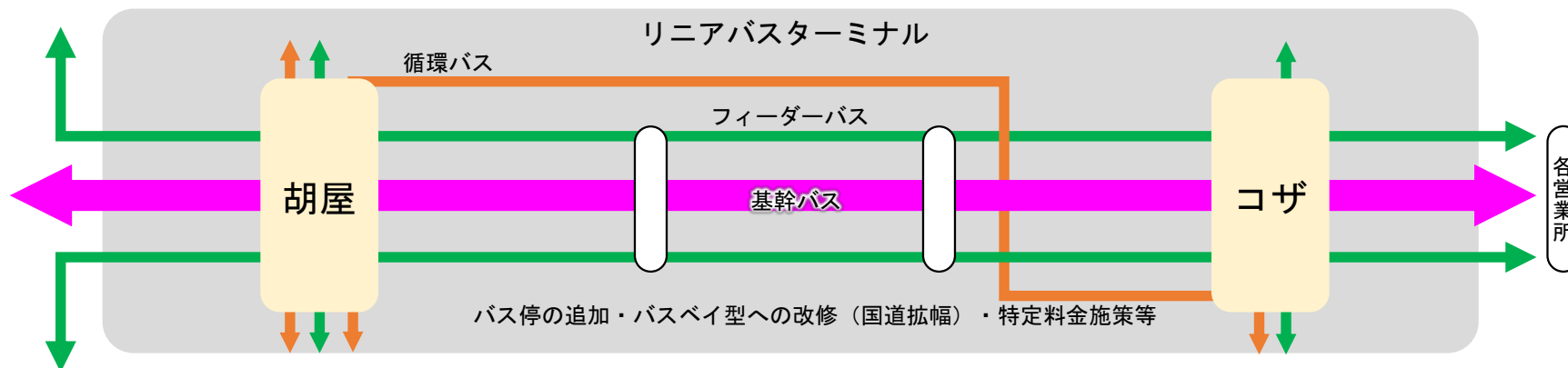
- ・ 沖縄県では、県内路線バスの課題へ対応すべく、バス網の再構築を推進するため基幹バスシステムを導入し、**沖縄市側の交通結節点整備に取り組む必要がある**とされています。
- ・ 鉄軌道の無い沖縄県において、**公共交通軸を作る重要な取組であることから、沖縄県と連携しながら検討を進めています。**

2. 上位・関連計画

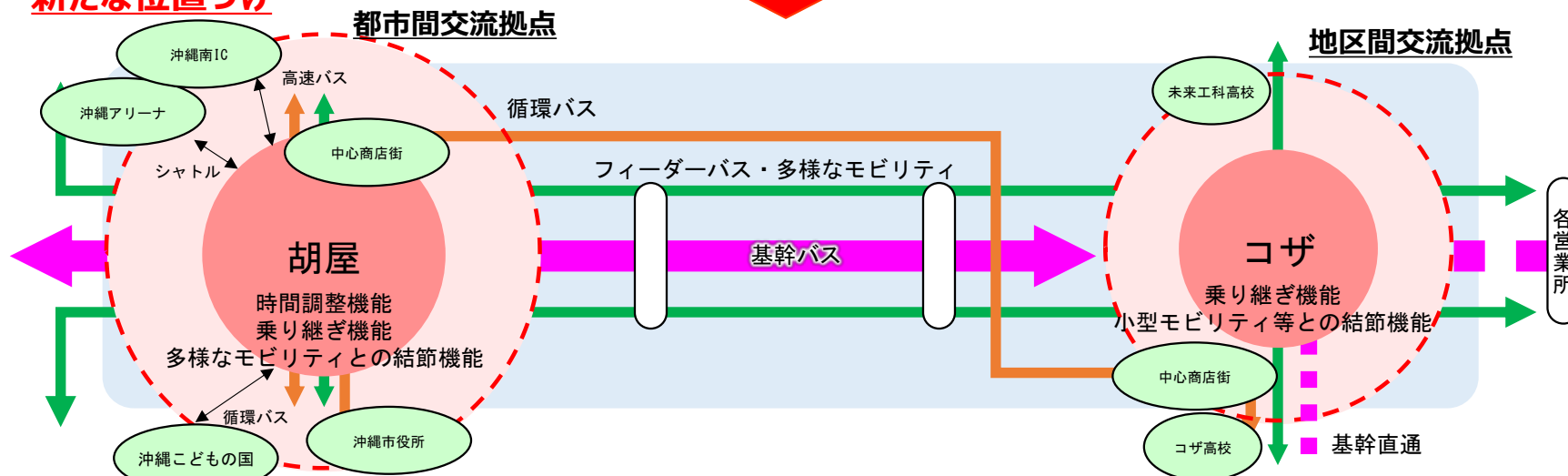
沖縄県基幹バス構想（沖縄県）：沖縄市における交通結節点の新たな位置づけ

- 当時は、沖縄市胡屋～コザ間周辺に用地の用途がなかったこともあり、胡屋～コザ間の線上をバスターミナルとして位置づけ（リニアバスターミナル）られていましたが、R3年度の検討において、**胡屋を都市間交流拠点、コザを地区間交流拠点として位置づけ**を行いました。

これまで（リニアバスターミナル）



新たな位置づけ



2. 上位・関連計画

バスタプロジェクト（国）

- バスタプロジェクトは、道路管理者が主体となって行う集約型公共交通ターミナルの整備・マネジメントを行い、地域における課題を解決するとともに、みち・えき・まちが一体となった新たな空間の創出により、道路ネットワークの機能を最大限発現し、地域の活性化や災害対応の強化、生産性の向上の実現を図る未来志向の新たな取り組みです。

集約型公共交通ターミナルによりみち・えき・まちが一体となった新たな未来空間の創出

人中心の空間づくりの推進

動線・施設配置の最適化



待合環境の改善



バリアフリー化



賑わい空間の創出



モーダルコネクトの強化

バス停の集約・ターミナル化



新たなモビリティへの対応



災害時の輸送確保



他の交通モード・拠点との連携



官民連携の推進

PPP/PFIの活用



まちづくりとの連携



道路空間の立体的な活用



イベントの実施



ICT等を活用した交通マネジメントの高度化（平常時・災害時）



MaaS等への対応



ETC2.0データ等の活用



各種情報収集・活用（災害時の情報提供等）

地域の活性化

地域の実情に即した公共交通ネットワークの充実や賢く公共交通を使う取組により、人と物の流れや地域の活性化等をより一層促進。

災害対応の強化

災害時の鉄道等の代替交通機関としてのバスの機能を強化し、災害時の人流を確保。

生産性の向上

ドライバー不足が進行するバスの運行効率化を促進するとともに、バスの利用促進により都市部の渋滞損失を削減。

3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

沖縄市胡屋・中央地区における現状と課題まとめ

沖縄市胡屋地区における交通の現況

【現況】

- ・ 胡屋十字路周辺は、三大都市圏に近い渋滞傾向にある。
- ・ 市民は沖縄本島中南部都市圏よりも車利用の割合が多い。
- ・ 本市の自動車保有台数は増加。
- ・ 胡屋バス停は路線バス利用者が市内で最も多く、通過する系統が集中。
- ・ 市全域を運行している循環バスが、胡屋地区を經由。
- ・ 胡屋地区周辺には沖縄南ICが位置している。
- ・ 市民は路線バス利用も念頭にある一方、バス利用は利便性に問題があるとの認識。

まちづくり・活性化(交通視点からの整理)

居住

【ポテンシャル】

- ・ 市の人口は増加傾向。
- ・ 胡屋地区の人口は近年微増の傾向。
- ・ 本地区は、昭和56年以前の建物(更新時期の建物)が多く、新築も数件みられる。
- ・ 本市は中心市街地の居住促進事業を実施。
- ・ 土地区画整理事業を実施。

【懸念事項】

- ・ 居住環境向上による人口の増加、自動車保有台数の増加による市内の交通渋滞の悪化。
- ・ 渋滞回避車両の生活道路への流入による、事故の増加。
- ・ 高齢化の進展に伴う、事故の増加。

【課題】

- ・ 公共交通利用促進。
- ・ 生活道路への通過交通対策。

商店街活性化・集客施設との連携

【ポテンシャル】

- ・ 胡屋地区は市内商店街の内、営業店舗数が最も多く、新規出店も見られる。
- ・ 来訪目的として飲食が目立ち、歩行者数が他商店街より多い。
- ・ 胡屋地区商店街と沖縄アリーナで連携した取り組みが実施されている。
- ・ 集客施設(観光含む)が周辺に立地。
- ・ 中の町と一番街の回遊性を確認。

【懸念事項】

- ・ 車(レンタカー)での来訪が多くなることによる、交通渋滞の悪化。
- ・ 駐車場を探す際のうろつき交通発生による、事故の増加。

【課題】

- ・ 公共交通利用促進。
- ・ 周辺施設移動支援。(シェアサイクル、小型モビリティ等)
- ・ 居心地がよく歩きたくなるまちなかの推進。

【今後考慮していく視点】

・ ユニバーサルデザイン ・ 高齢、障がい福祉 ・ 景観 ・ 防災 ・ ICT技術等 ・ 交流 ・ ゼロカーボンシティ

3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

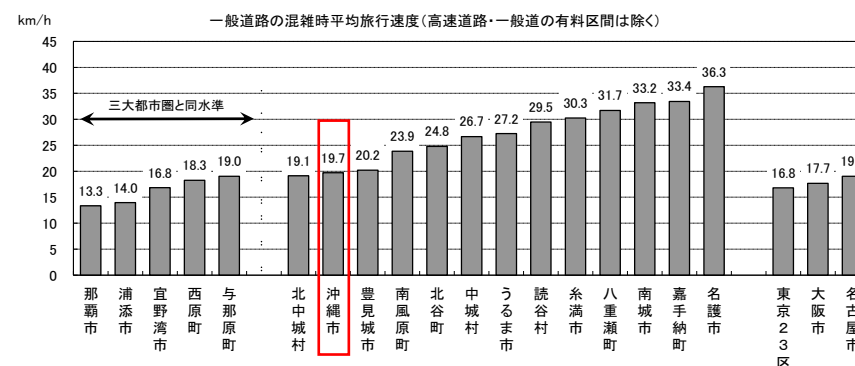
主要渋滞箇所・交通状況

【課題】

- 沖縄市内には主要渋滞箇所位置付けられている交差点及び区間が存在しています。また、沖縄市全体の混雑時旅行速度では19.7km/hで、東京23区などの三大都市圏に近い旅行速度となっています。さらに、胡屋十字路周辺における混雑時平均旅行速度は15km/h以下となっており、市内全体と比較しても混雑しています。
- 交通渋滞緩和に向けた対応が必要とされています。

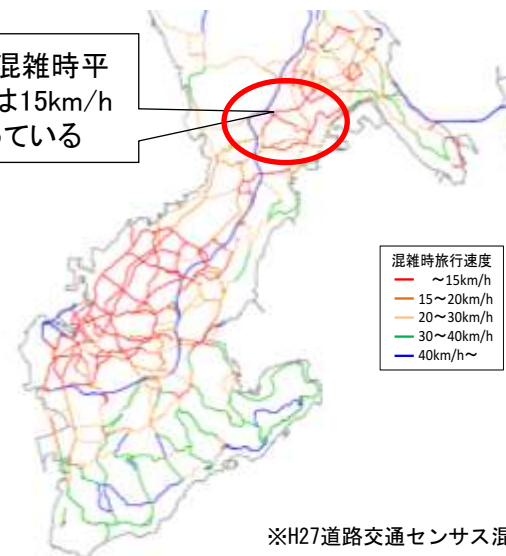


出典：R2沖縄地方渋滞対策推進協議会資料



出典：H29TDM施策推進アクションプログラム（沖縄県）

胡屋周辺の混雑時平均旅行速度は15km/h以下となっている



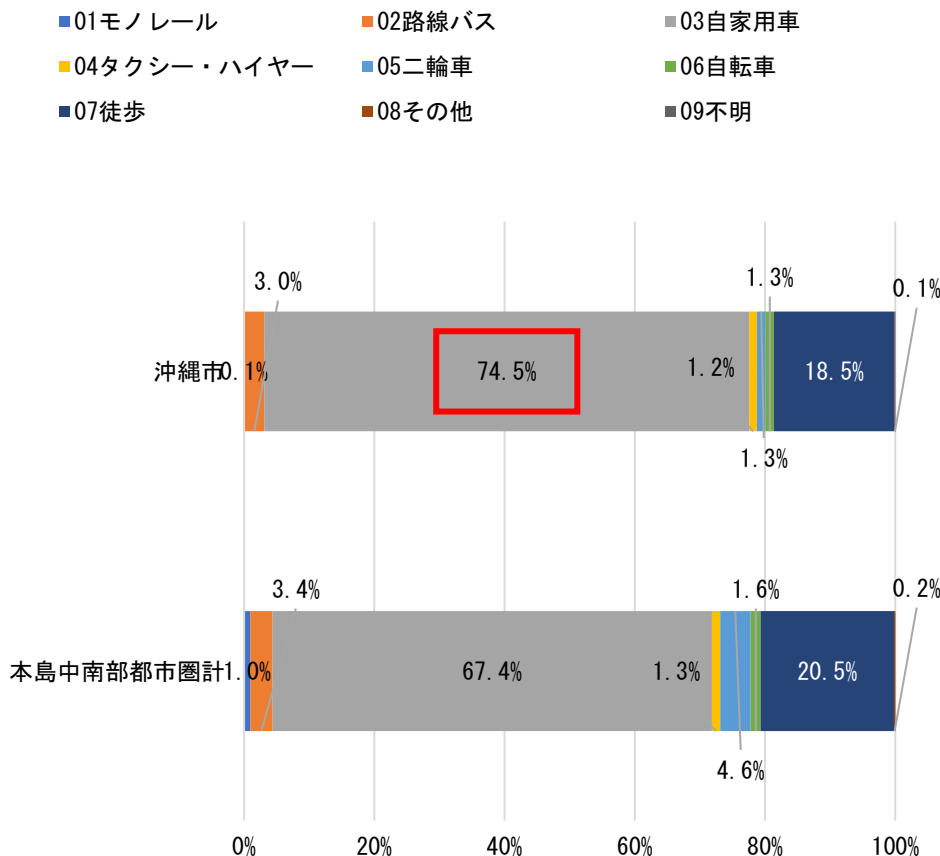
※H27道路交通センサス混雑時平均旅行速度より作成

交通手段分担率

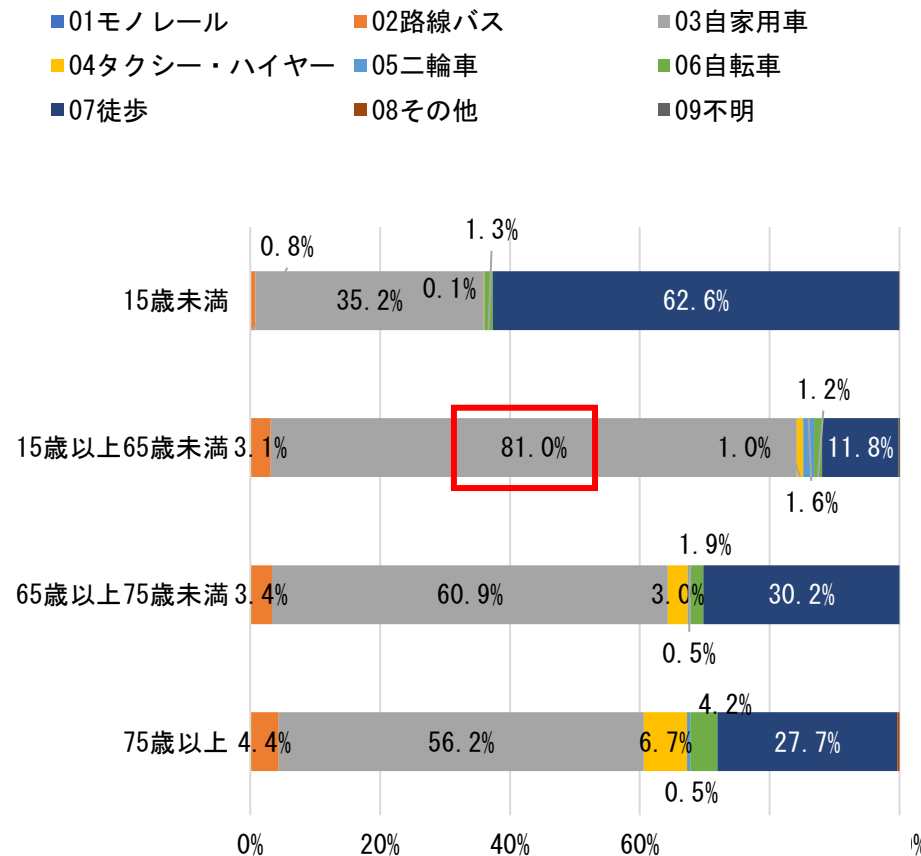
【課題】

- 沖縄市民がよく利用する移動手段は、自家用車（74.5%）が大きな割合を占めており、沖縄本島中南部都市の平均値（67.4%）と比べ、自家用車の利用が多くなっています。
- 年齢別の移動手段では、15歳以上65歳未満での自家用車の利用が8割を占めています。また、65歳以上の年代においても、5割を超えています。
- 自家用車のみに依存しない、移動手段の選択肢を増やすための取組が必要とされています。

■ 沖縄市民の交通手段分担率



■ 沖縄市民の年齢別交通手段分担率

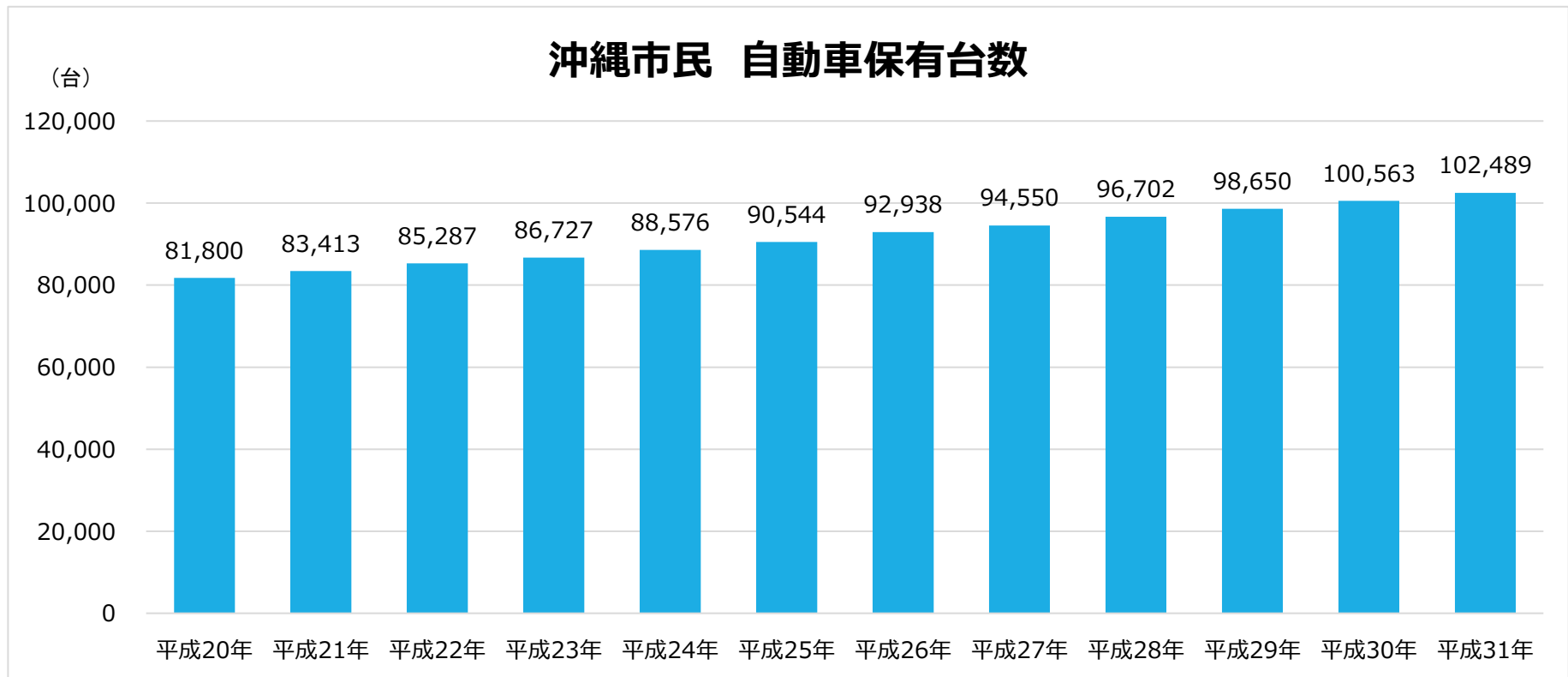


3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

市民の自動車保有台数

【課題】

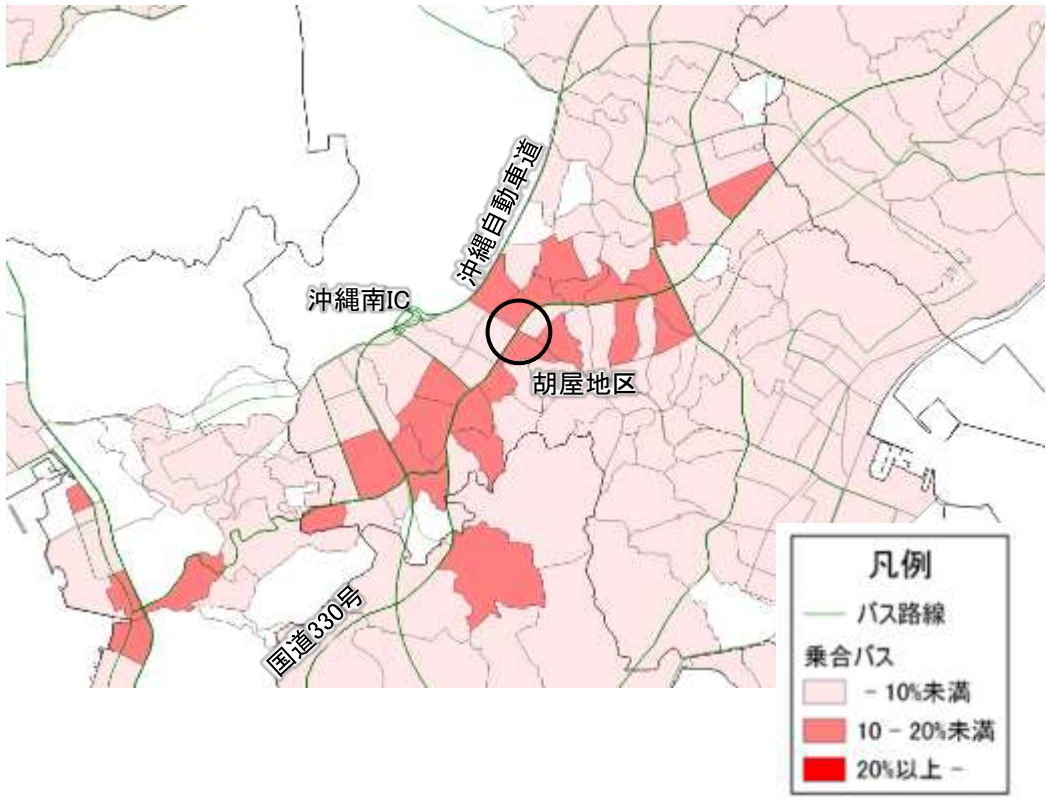
- ・ 沖縄市民の自動車保有台数は年々増加しています。
- ・ 自家用車のみに依存しない、移動手段の選択肢を増やすための取組が必要とされています。



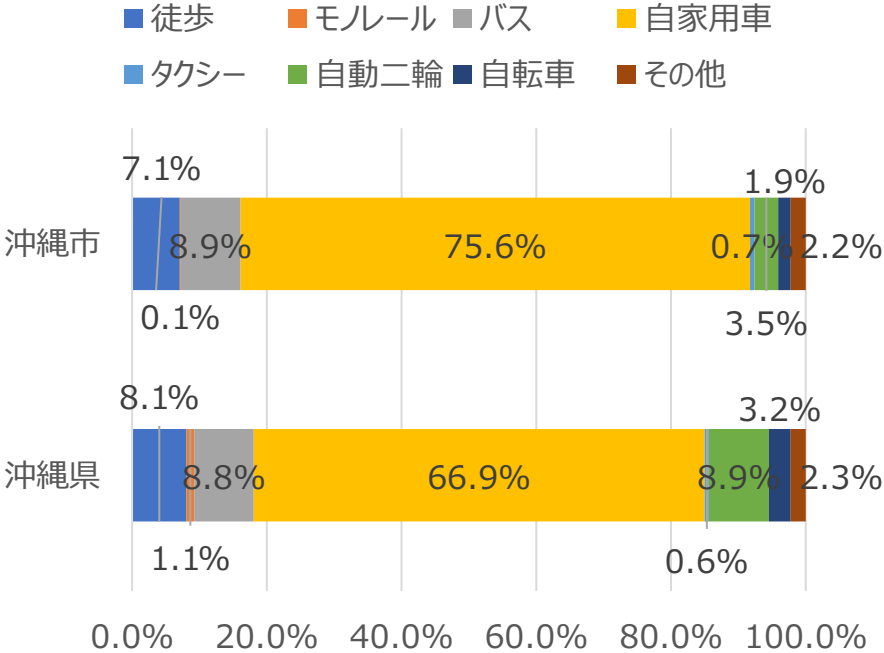
沖縄市（胡屋地区）の交通特性

- 【ポテンシャル】
- バスの利用が多いエリアは、沖縄市内では国道330号沿道となっており、胡屋地区も高くなっています。
 - 沖縄市の通勤・通学時の交通手段の分担率は、自家用車利用割合が約8割と県と比べても大きな割合を占めています。路線バスについては約1割となっています。
 - 胡屋・中央地区では、国道330号の沿線であり、路線バス本数が多いことから、公共交通促進に向けたポテンシャルを秘めています。

○国道330号沿道のバス停を利用する人が多いエリアはどこか？



出典：H22国勢調査



出典：H22国勢調査

3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

バス停毎の利用者数

【ポテンシャル】

- 平成18年の県内のバス停利用者数を見ると、沖縄市では、「胡屋」が最も多く、次いで「コザ高校前」、「中の町」となっています。
- 胡屋バス停を通過する路線バスの系統が集中しており、実はバスのサービス水準は高い地域であることから、公共交通促進に向けたポテンシャルを秘めています。

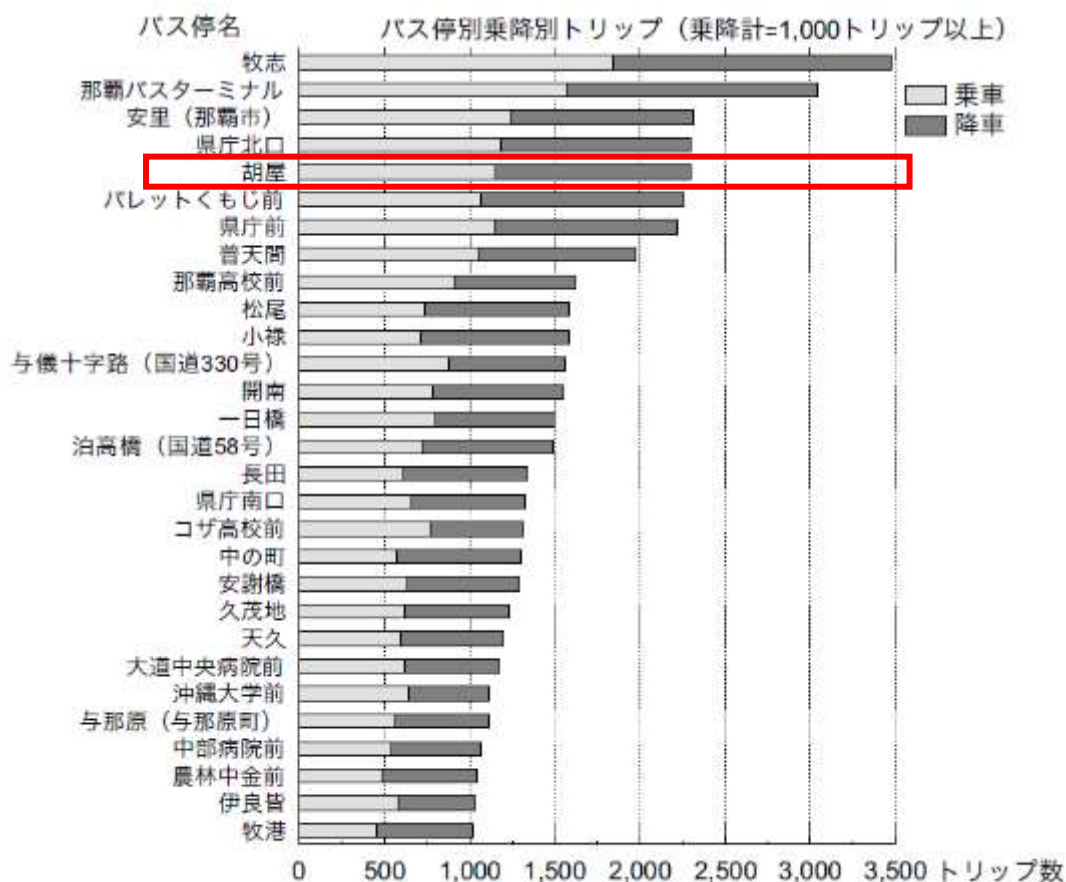


図 63 バス停別 乗降別 トリップ数（乗降計=1,000トリップ以上）



出典：沖縄市地域公共交通網形成計画

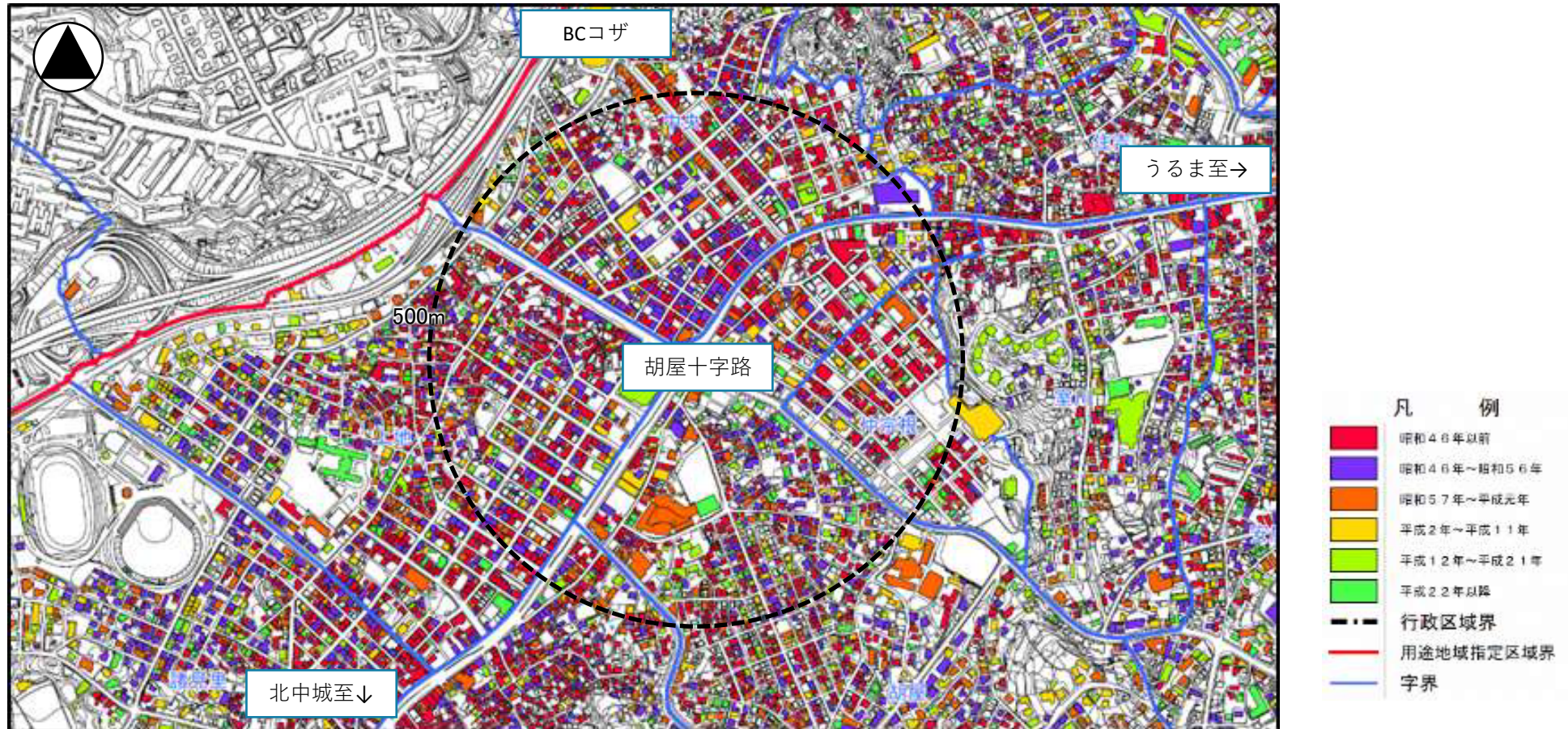
3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

建築物の状況（建築物年齢）

【課題】

- 胡屋・中央地区周辺では、昭和56年以前の建物（建築基準法改正前に建築された建物）等、耐震性の低い建物が存在しており、建物の更新時期である可能性があります。

胡屋十字路周辺の土地利用状況

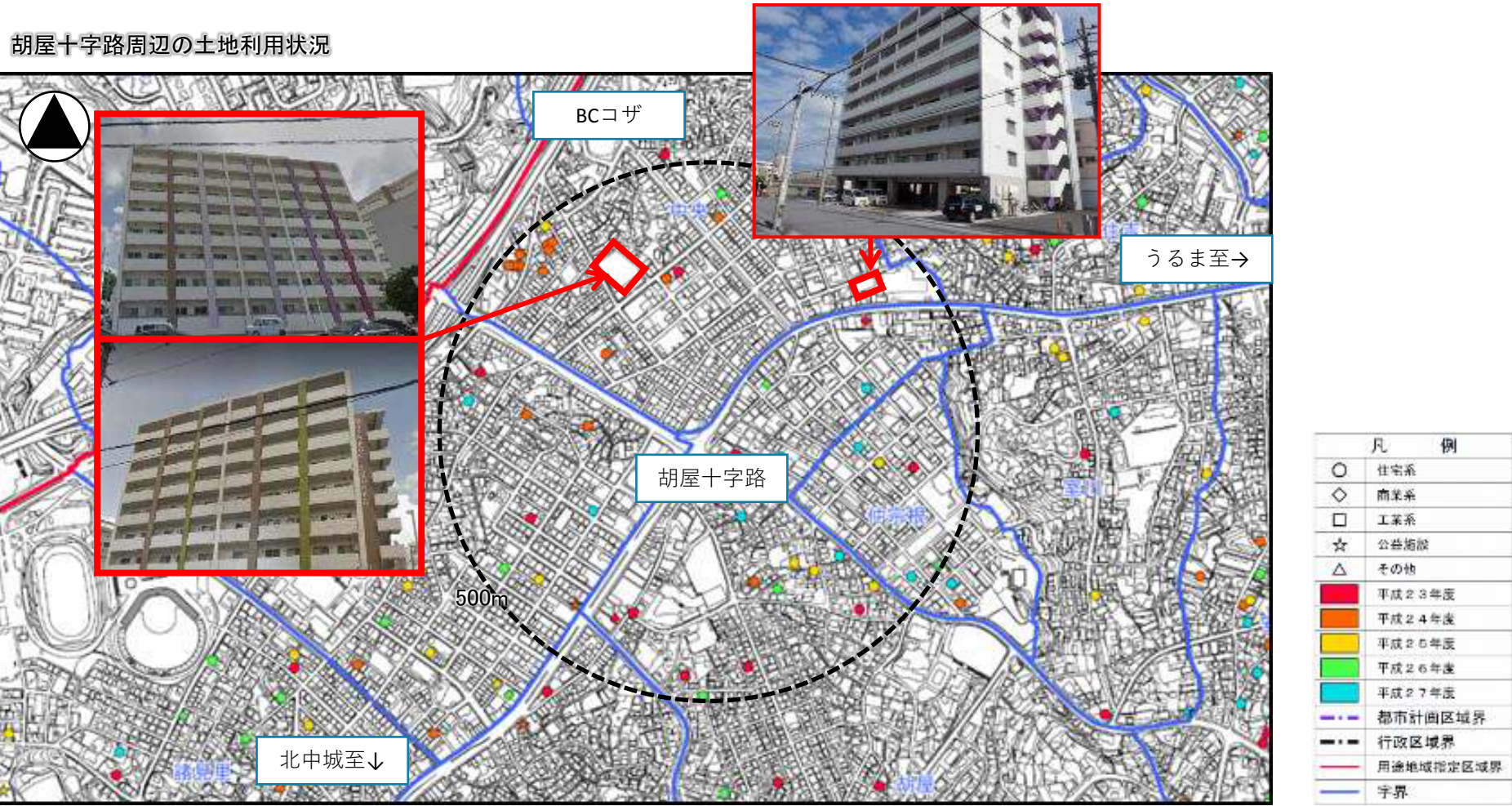


新築動向

【ポテンシャル】

- 胡屋・中央地区周辺では、平成22年から平成28年にかけて、約49件、新築した建物（共同住宅）が見られます。

胡屋十字路周辺の土地利用状況



3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

市の取り組み（良好な市街地の形成）

【ポテンシャル】

- ・ 胡屋十字路周辺の中の町地区では、土地区画整理事業を実施し、良好な市街地の形成を図ります。

■位置図



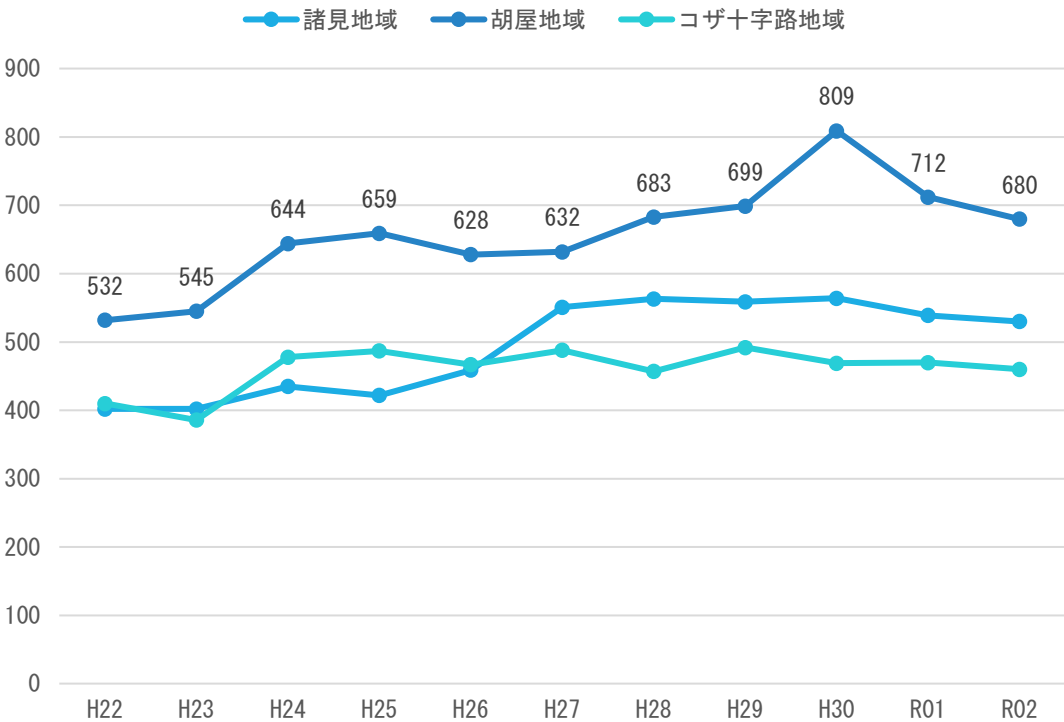
出典：H28沖縄市中心市街地活性化基本計画

出典：沖縄市区画整理課HP 中の町土地区画整理事業に関する住民説明会資料

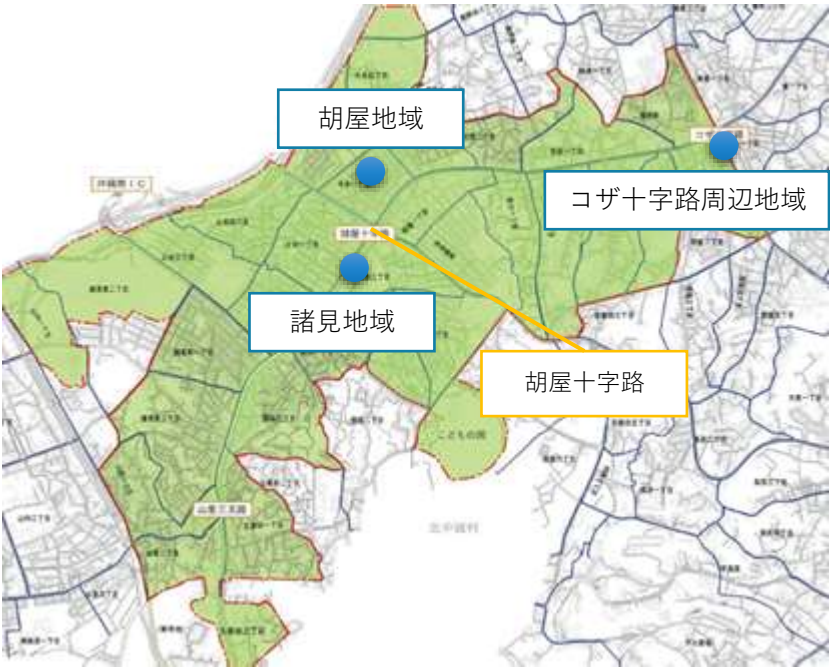
営業店舗数の推移

- 【ポテンシャル】
- 沖縄市の地域別における営業店舗数は、商店街等が複数存在する胡屋地域での営業店舗数が最も多く、令和元年度からも従前の店舗数を維持しています。
 - まちの賑わい創出に向けては、地域の活力が重要となります。

■ 地域別営業店舗数



■ 位置図



3. 沖縄市胡屋・中央地区の現状と課題

胡屋地区商店街と沖縄アリーナとの連携

【ポテンシャル】

- 胡屋地区の商店街と沖縄アリーナとで連携した取り組みが始まっています。課題として、商店街と沖縄アリーナを結ぶシャトルバスの運行や、商店街周辺の駐車場のICT化等が挙げられております。
- 胡屋・中央地区の半径2km圏内には、沖縄アリーナや沖縄こどもの国を始めとして、多様な集客施設が存在しています。これらと連携することで、バスターミナルを中心とした賑わいの創出が考えられます。

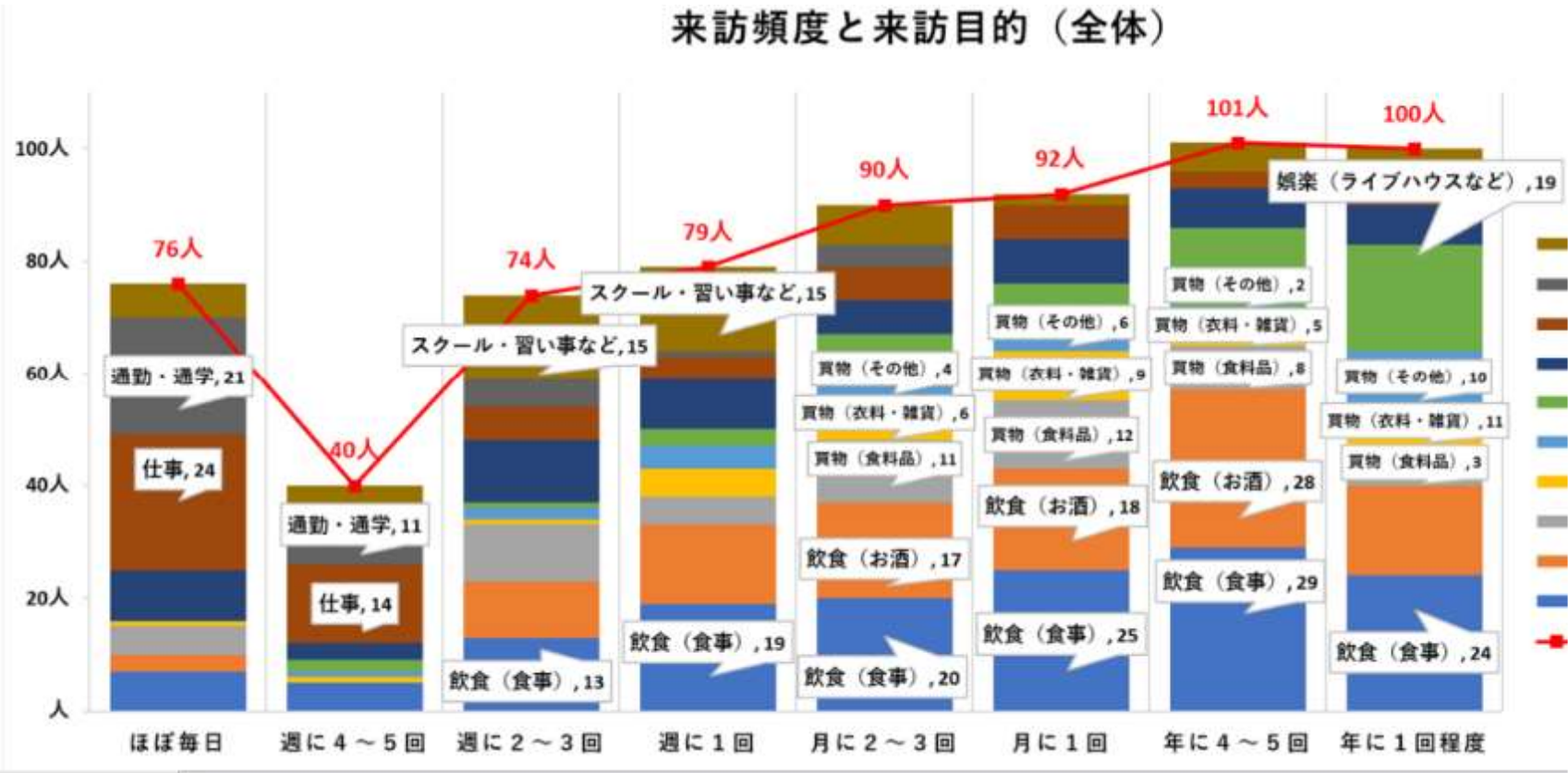


商店街来訪者調査結果

【課題】

- ・ ほぼ毎日、週に4から5回訪れている方は、「仕事」「通勤・通学」が目立ちます。また、他来訪目的は、飲食（食事・お酒）が目立つ結果となりました。
- ・ 飲食（食事・お酒）関係以外での来訪を増やすことが、まちの賑わい創出につながる事が想定されます。

■調査結果



4. 整備のための方向性

4. 整備のための方向性

将来像・基本的方針

- 交通拠点整備基本構想では、将来像を「KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち」とし、各方針（①～⑤）と紐づく取り組みを以下の通り定めます。

将来像：KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

【方針①】だれもが楽しめる、居心地がいい場づくり

- 沖縄市の商業の中心である胡屋地区（一番街商店街地区、中央パークアベニュー地区、コザゲート通り地区）において多様な人が訪れ、魅力的な空間を心地よく歩き、つどい、たずむことができる拠点の構築を図ります。

○地域の魅力向上

- ・より長く滞在してもらえる場所の創出
- ・魅力を感じて訪れてもらえる場所の創出
- ・住みたいと思う人が暮らせる場所の創出
- ・交流、憩いの場の創出 ・地域イベントにも活用できる空間の創出
- ・商店街の道路空間を活用した魅力の創出

【方針②】まちとまちとの結びつきを強くする場づくり

- 本島中南部の一体性を高める社会インフラとして位置づけられている基幹バスシステムと連携し、沖縄本島全体が抱える交通課題への改善や、交流機会の創出につながるよう、交通拠点機能の構築を図ります。

○都市間のアクセス機能の向上

- ・那覇市と沖縄市を結ぶ軸となる基幹バスシステムとの連携
- ・路線バス、観光バス、高速バス、タクシー等との連携
- ・まちづくりと連携した駐車場施策の促進 ・行先が分かりやすい乗降場、上屋、待合所、デジタルサイネージ、インフォメーションセンター等の整備

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

- 地域内のアクセス性、回遊性を高めるため、様々な交通手段との乗り継ぎ機能の強化を図り、誰もが移動しやすい、環境の構築を図ります。

○地域内の回遊性向上

- ・バス（路線、循環、シャトル）、タクシー、その他交通手段（シェアサイクル、高齢者用乗り物、観光用乗り物 等）との連携
- ・歩いて楽しい（ウォーカブル）空間の創出
- ・バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

- 南北の商業景観軸と東西の交流景観軸が交わる沖縄市の顔となる地域として、KOZAの歴史や文化を感じることが出来る空間の創出を図ります。

○沖縄市が持つ個性豊かな空間づくり

- ・国際色豊かな街並みの形成 ・KOZAが感じられる空間の形成
- ・沖縄市の玄関口にふさわしい空間の形成
(国道330号、パークアベニュー、ゲート通り 等)

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

- 訪れやすい安全で安心な環境づくりを目指します。また、災害時における防災情報などが取得できる環境づくりを目指します。

○防犯・防災機能の向上

- ・防災情報（警報、注意報等）や交通機関の運行情報等の情報発信
- ・一時避難場所としての待合所・広場の活用
- ・安全・安心なまちの創出（防犯・交通安全）
- ・沖縄アリーナとの連携 ・Wi-Fi等、災害時・緊急時の通信手段の確保
- ・無電柱化

5. 基本構想

5. 基本構想

基本構想

- 沖縄市では交通拠点整備基本構想として、（仮称）胡屋バスターミナルの機能及び、4つの方面での取り組み方針等を以下の通りとします。

沖縄市中心市街地活性化基本計画 基本方針（第3期 R6.4～R11.3）

- （1）歴史文化やまちの個性、人々を魅了するエンターテインメントの力を活かしたにぎわいづくり
- （2）地域・住民・来訪者にとって快適で良好なまちづくり

交通拠点整備基本構想（案）

将来像：KOZAのみんなで作る、活力に満ちたまち

【方針①】誰もが楽しめる、居心地がいい場づくり

【方針③】まちなかの結びつきを強くする場づくり

【方針⑤】より安全で安心なまちづくり

【方針②】まちとまちの結びつきを強くする場づくり

【方針④】KOZAの歴史・文化が感じられる場づくり

① 沖縄アリーナ方面

- ・ スポーツを楽しむ、盛り上げる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

② 沖縄こどもの国方面

- ・ 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

胡屋バスターミナル機能

【基本機能】

【交通結節機能】

【防災機能】

【地域の拠点・賑わい機能】

【サービス機能】

【景観機能】

③ 一番街・八重島方面

- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
- ・ 安心して暮らせる環境の創出

④ 沖縄市役所・コザ方面

- ・ 安心して暮らせる環境の創出
- ・ まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出

4. 整備のための方向性

基本的な方向性イメージ（広域交通との連携の範囲）

- 広域交通との連携の範囲では、胡屋・中央地区バスターミナルを中部地域の中心として、中部都市圏や那覇都市圏、北部市町村等を結びます。

■東南植物楽園



出典：東南植物楽園提供

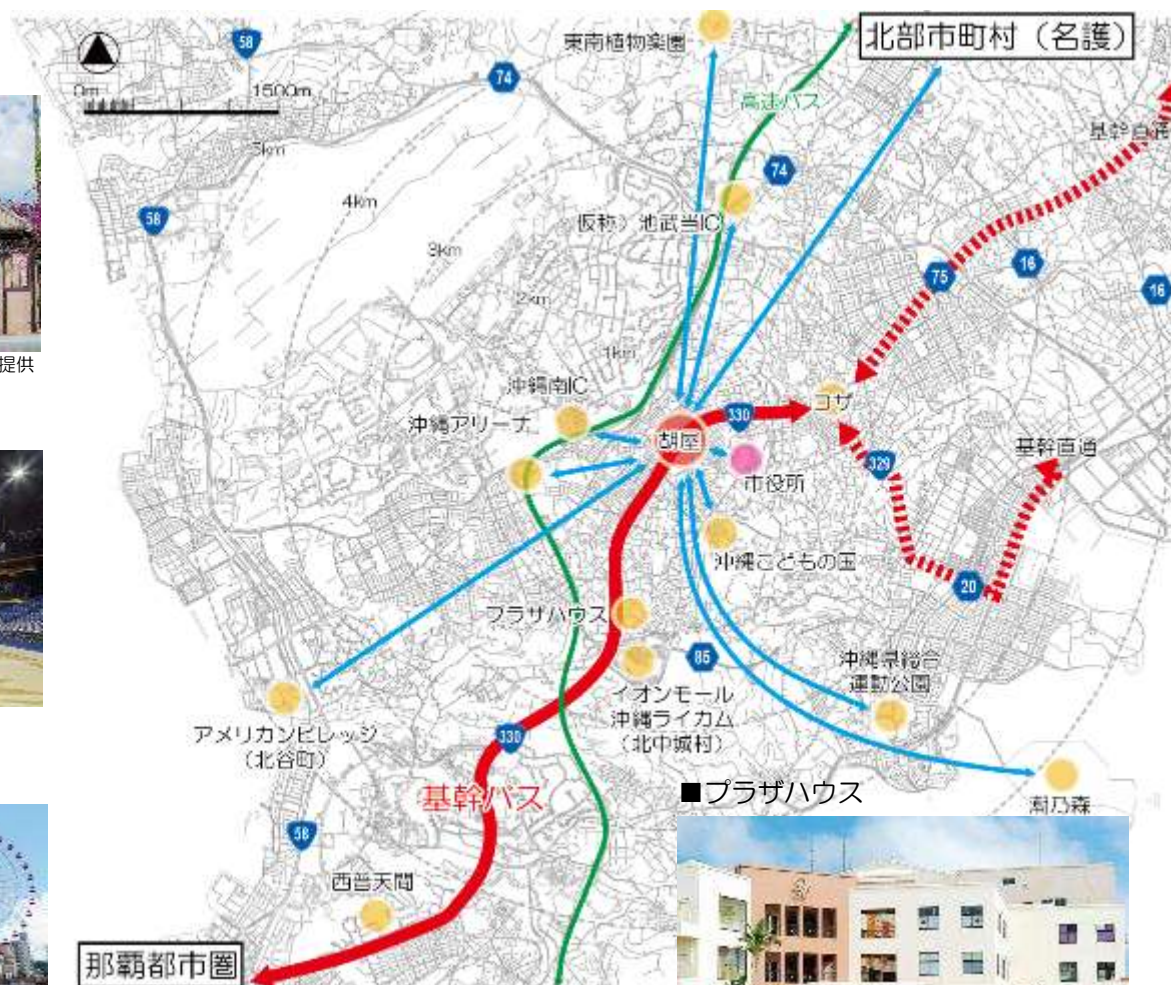
■沖縄アリーナ



■アメリカンビレッジ



出典：北谷町観光協会公式Webサイト



■沖縄こどもの国



出典：沖縄こどもの国HP

■潮乃森



出典：沖縄市HP

■フラサハウス



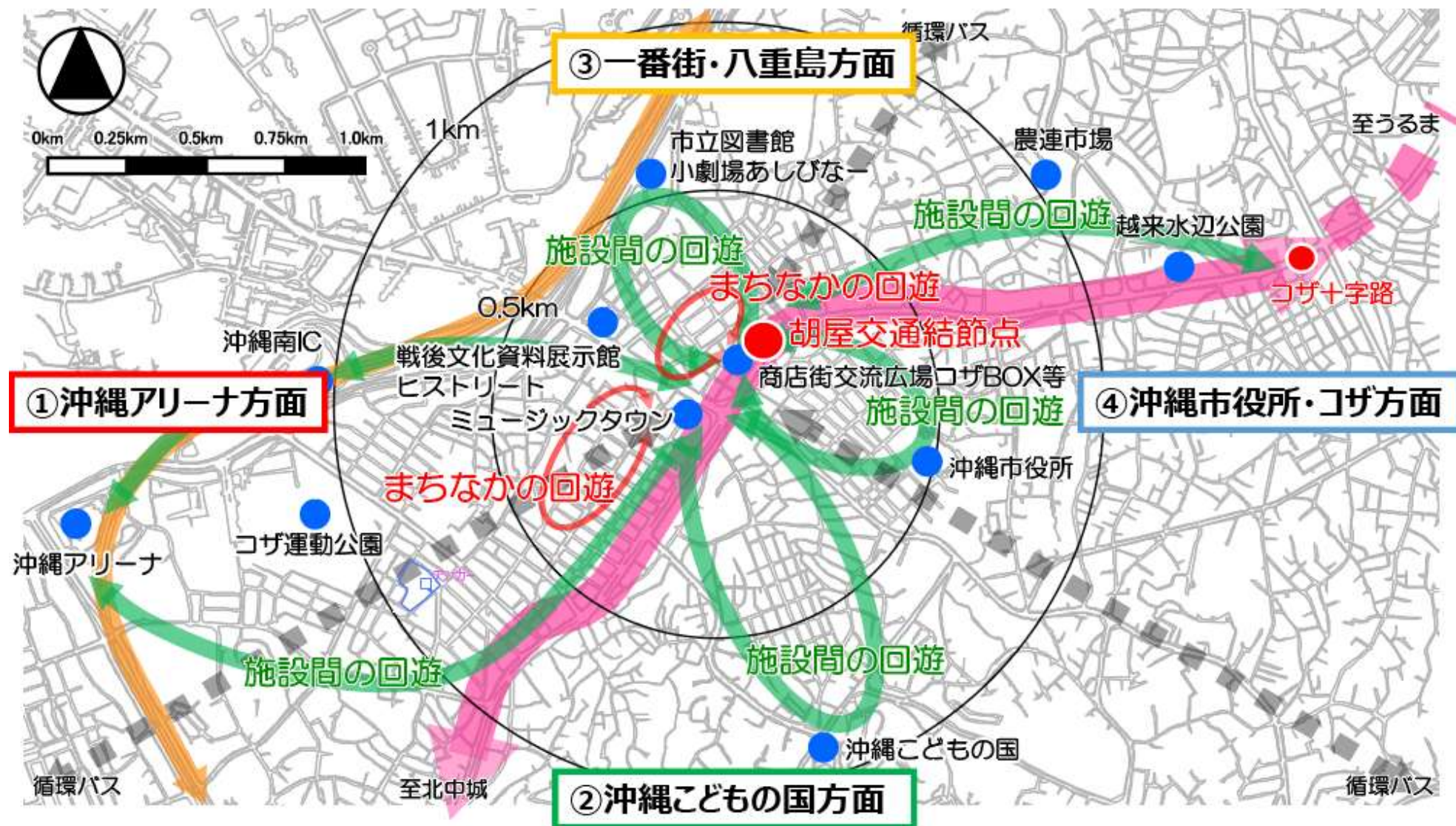
■イオンモール沖縄ライカム



4. 整備のための方向性

基本的な方向性イメージ（沖縄市胡屋・中央地区を中心とした範囲）

- 沖縄市胡屋・中央地区を中心とした範囲では、胡屋・中央地区バスターミナルを中心に、周辺の主要施設を結び、回遊性を向上させます。



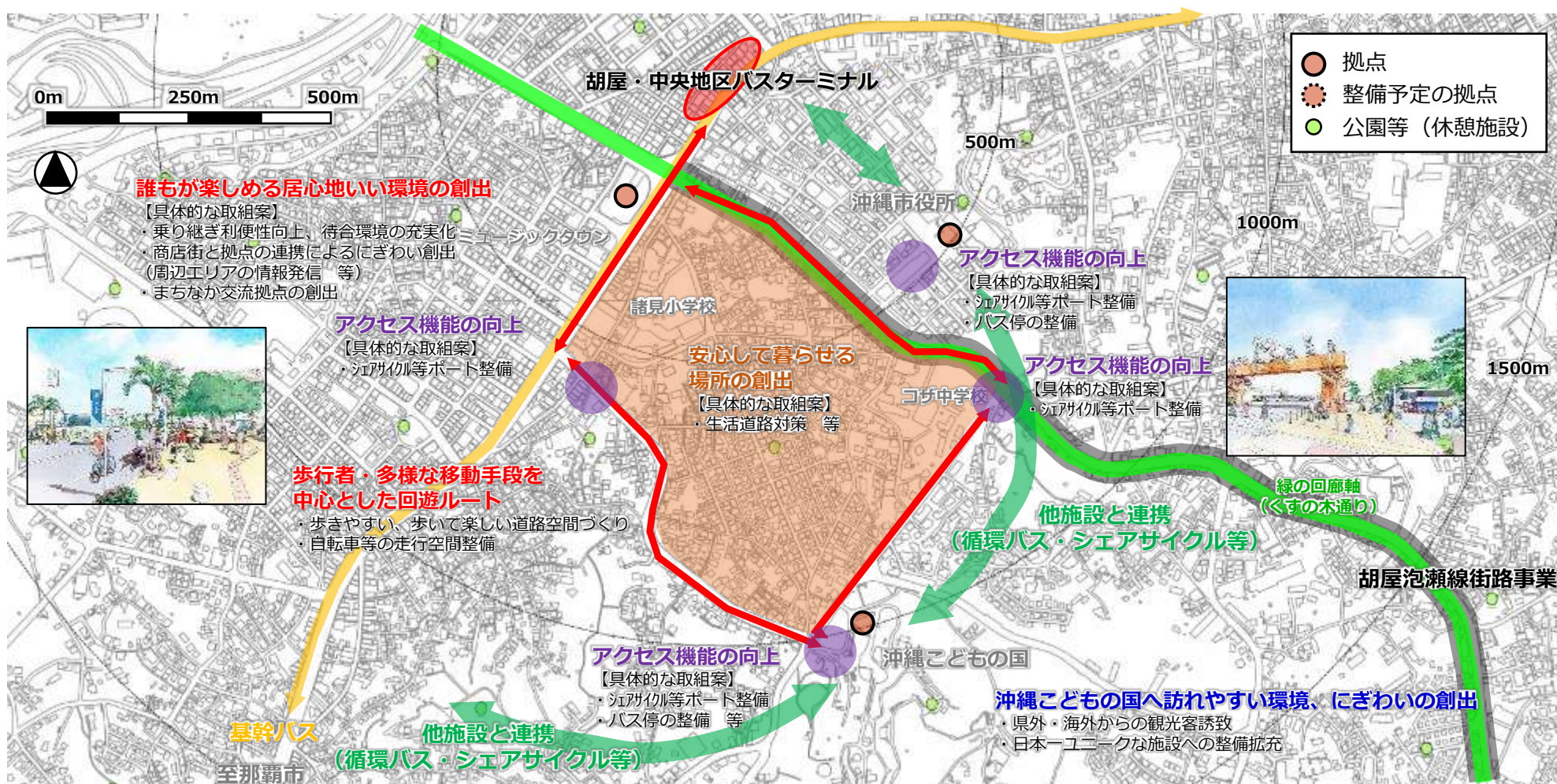
1. スポーツを楽しみ、盛り上げる環境の創出
2. まちの個性（商業・文化・歴史）を活かしたにぎわいの創出
3. 安心して暮らせる環境の創出

- ・沖縄アリーナ方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



1. 沖縄こどもの国へ訪れやすい環境、にぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

- 沖縄こどもの国方面における2つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。

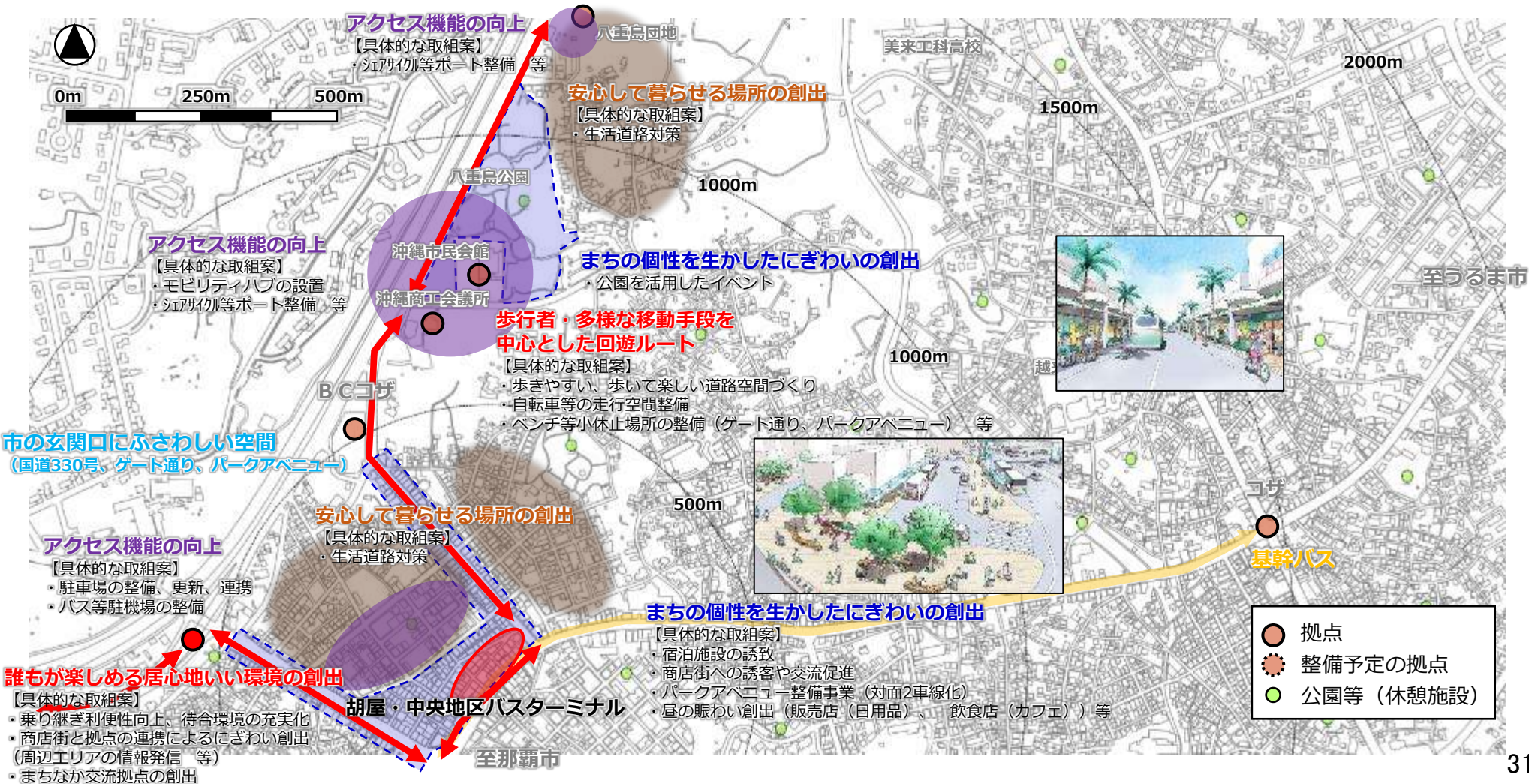


5. 基本構想

③ 一番街・八重島方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出
3. 市の玄関口にふさわしい空間の創出

- ・ 一番街・八重島方面における3つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。

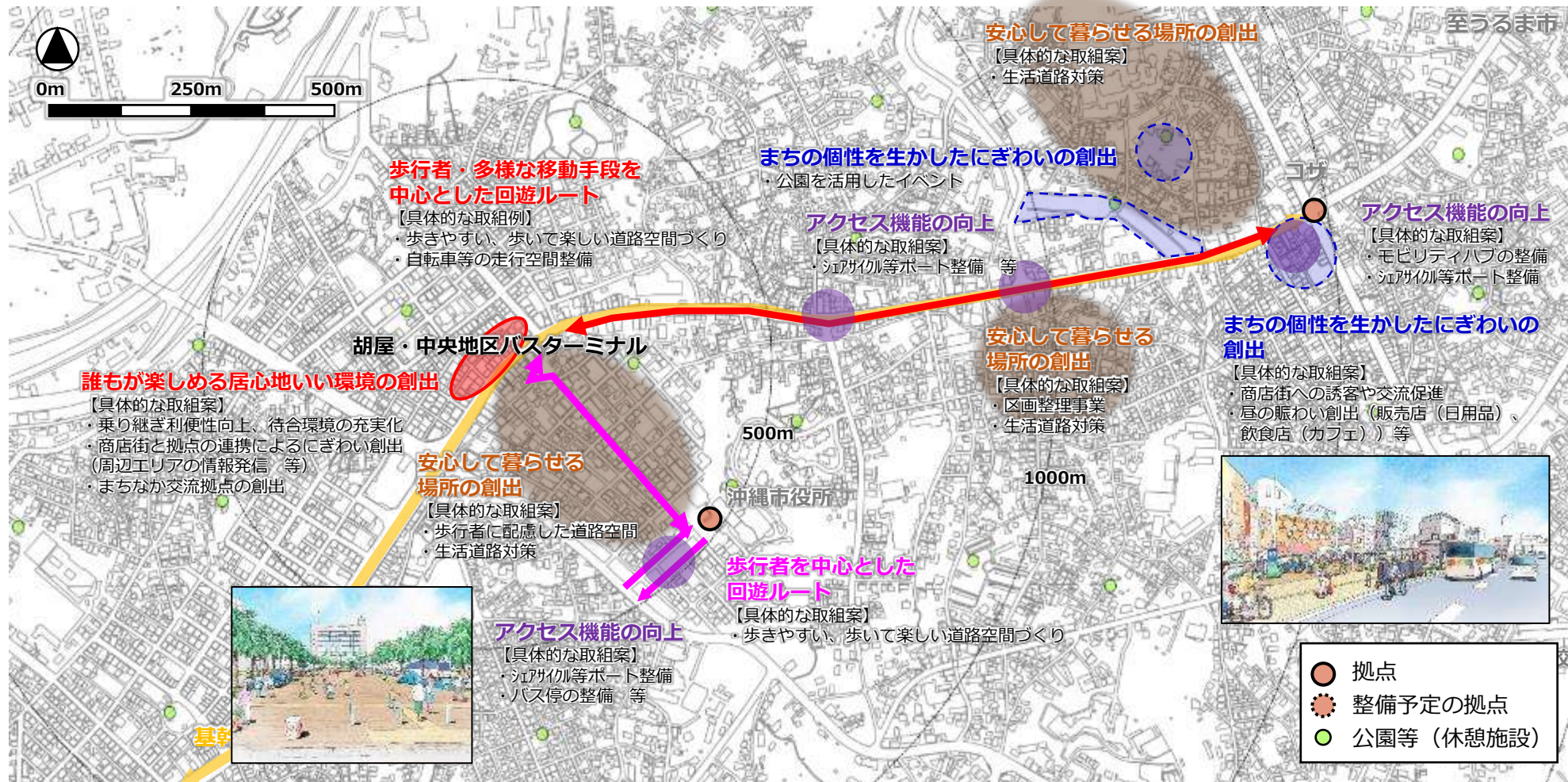


5. 基本構想

④ 沖縄市役所・コザ方面

1. まちの個性（商業・文化・歴史）を生かしたにぎわいの創出
2. 安心して暮らせる環境の創出

- ・ 沖縄市役所・コザ方面における2つの基本方針を基に、バスターミナルと街を結ぶための、具体的な取組案（まちづくり、回遊性向上）を整理しました。



5. 基本構想

具体的なアイデア

歩行者・多様な移動手段を中心とした回遊ルート

- ・ 自転車等の走行空間整備



＜自転車道＞



＜自転車専用通行帯＞



＜車道混在＞



＜車道混在とする場合に併用する路面表示の標準仕様＞

【概要】歩行者と分離された自転車通行空間（国土交通省HP）

- ・ 国土交通省と警察庁では、合同で「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」を策定しており、このガイドラインに基づき、歩行者と分離された自転車通行空間の整備を推進しています。
- ・ また、自転車通行空間を効果的、効率的に整備するため、自治体による自転車ネットワーク計画（※）の策定を促進しています。
- ・ ※安全で快適な自転車通行空間を効果的、効率的に整備することを目的に、面的な自転車ネットワークを構成する路線を選定し、その路線の整備形態等を示した計画。市町村が道路管理者や都道府県警察等と共同で策定。

歩行者を中心とした回遊ルート

- ・ ベンチ等小休止場所の整備



【概要】パークレット（元町通り事例より）

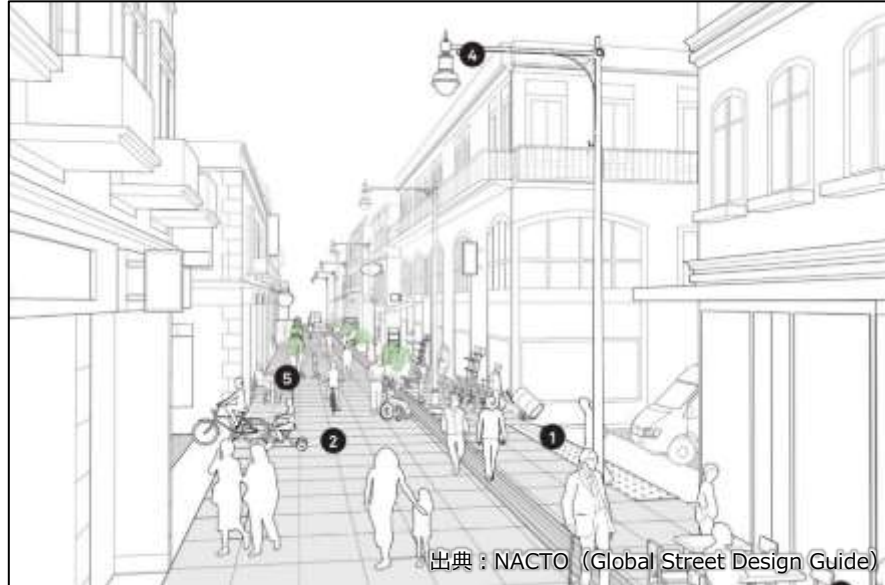
- ・ 元町エスエス会がとりまとめた「横浜元町第4期街づくり基本計画」に基づく最初の取組として実施。滞留空間の創出を求める声を受け、街のホスピタリティ向上の一環としてパークレットを導入した。元町のイメージに合った高質な家具類や照明器具を地元商店が製作・一体的に整備した。路上停車帯の転用にあたり、その代替機能を周囲の民間立体駐車場の改修等により確保している。

5. 基本構想

具体的なアイデア

歩行者を中心とした回遊ルート

- ・ 歩きやすい、歩いて楽しい道路空間づくり



出典：NACTO (Global Street Design Guide)

【概要】シェアードストリート（NACTO リ・デザイン例より）

- ・ 歩行者を中心とした道路空間（車や自転車等も通行可能）。舗装は歩行者の優先順位を強化するために歩道と統一化を図る。
- ①すべての入り口に警告用のストリップを設置。
 - ②配送車両用のエリアをマーク。
 - ③ベンチ、プランター、アートワーク、樹木、噴水、ボラード、駐輪場などのストリートファニチャーを使用して、共有スペース内の走行車線を描写。
 - ④安全で居心地の良い環境を作り出すため照明を整備。
 - ⑤プランターや樹木などの造園。可動プランターを使用した、特定の時間帯の車両の交通アクセスの制限等。

まちの個性を生かしたにぎわいの創出

- ・ 商店街への誘客や交流促進



具体的なアイデア

まちの個性を生かしたにぎわいの創出

- ・ 宿泊施設の誘致
- ・ 昼の賑わい創出



【概要】宿泊施設、販売店 等

- ・ 店舗改修補助等により、沖縄市の一番街商店街周辺では新たな店舗が開業中。

5. 基本構想

具体的なアイデア

アクセス機能の向上

- ・モビリティハブの設置
- ・シェアサイクル等ポート整備



【概要】モビリティハブ

- ・「モビリティ・ハブ」とは、様々な交通モード（小型モビリティ、電動キックボード、電動アシスト付自転車、E Vバイク等）の接続・乗り換え拠点を指している。



【概要】シェアサイクルポート

- ・東京都杉並区ではシェアサイクリングのポート（3事業者）を整備している。

5. 基本構想

交通結節点の必要機能

- 交通拠点のその他機能について、国のガイドラインや沖縄市のまちづくりも踏まえ、以下の機能を基本とします。

表 2-1 交通拠点の機能の概要

区分	機能	機能の具体例
交通機能	基本機能	バスやタクシー等への乗降や乗降までの移動・待合、また、車両の拠点内の移動や停留・待機、交通ターミナルの運営等、交通拠点が備えるべき基本的な機能  
	交通結節機能	交通拠点における多様な交通モードが一体となって機能するよう、交通モード間を円滑に接続するための機能  
	防災機能	交通拠点の交通機能を災害時においても確保するための機能。  
交流等機能	地域の拠点・賑わい機能	まちづくりと連携し、賑わいのある空間を創出するための機能  
	サービス機能	交通拠点を利用する歩行者の利便性向上に係る各種サービスの提供を行うための機能  
	景観機能	交通拠点として地域の顔にふさわしい景観の創出、また、訪れる人にゆとりや安らぎを与えるための機能  



- 待合空間の創出・小型モビリティの導入
- ・ 便利で快適な待合空間を確保するため、バス待合所を設置し、デジタルサイネージ等でバス運行時刻等の情報提供 等
- ・ 周辺施設の回遊性向上及び当該施設利用圏域を広げるため、自転車等小型モビリティを導入



- 移動円滑化・地区全体でのバリアフリーな空間の形成
- ・ 安全性・アクセス向上のため、円滑な歩行者ネットワークを確保するとともに、バリアフリーな空間を形成 等



- 防災機能の構築
- ・ 待合空間を一時避難場所として活用
- ・ デジタルサイネージを活用した防災情報の提供 等



- 多様な都市活動促す施設・広場の創出
- ・ 賑わい・滞留・交流機能等の多様な都市活動が可能となる拠点づくり。



- 公共交通利用促進等の情報提供機能の創出
- ・ 交通拠点内に総合案内所を設置し、利用者のニーズ(券売所、交通系IC等)に対応 等



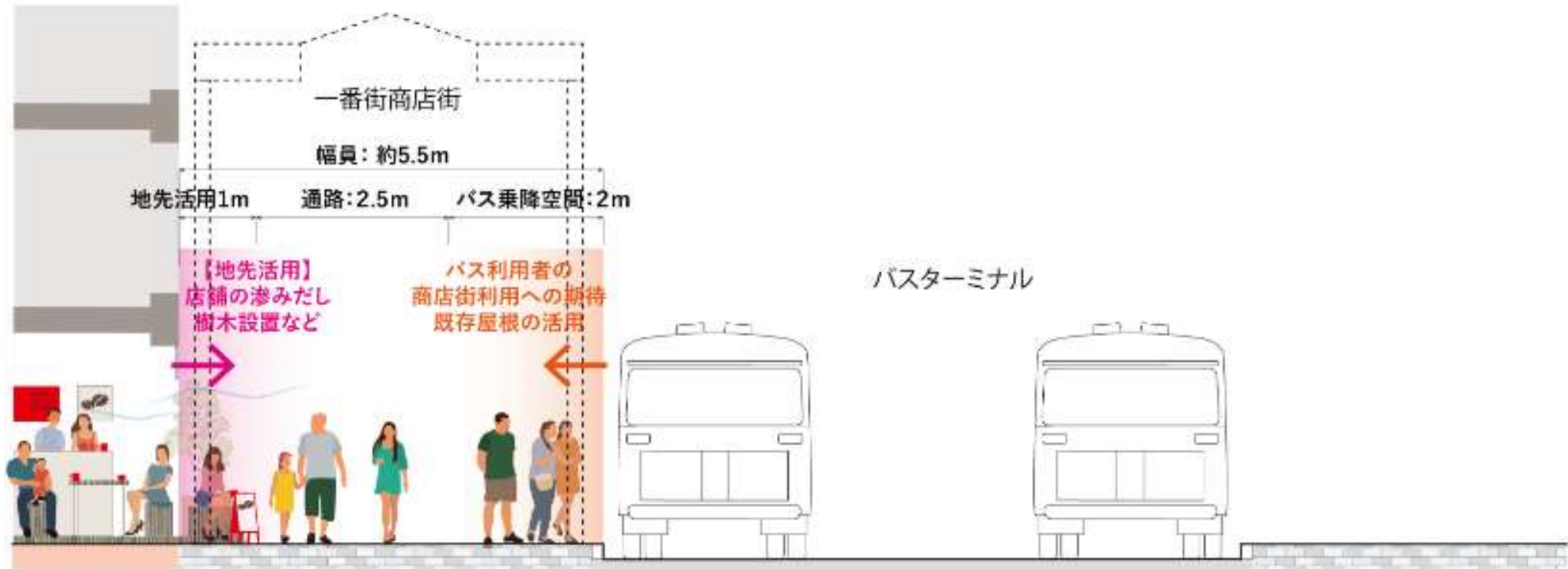
- 道路と緑地の立体的・良好な空間の形成
- ・ 道路空間の緑地スペースとしての活用、良好な環境の創出、景観の形成 等

5. 基本構想

交通結節点の必要機能

- ・ 商店街とのつながりを見据え、乗降場は商店街に面した位置に配置をします。
- ・ 乗降場では、路線バス、沖縄市循環バス、観光バス、シャトルバス、タクシー等の利用が可能となります。

■商店街側の通路にバス乗降バースを設けるイメージ

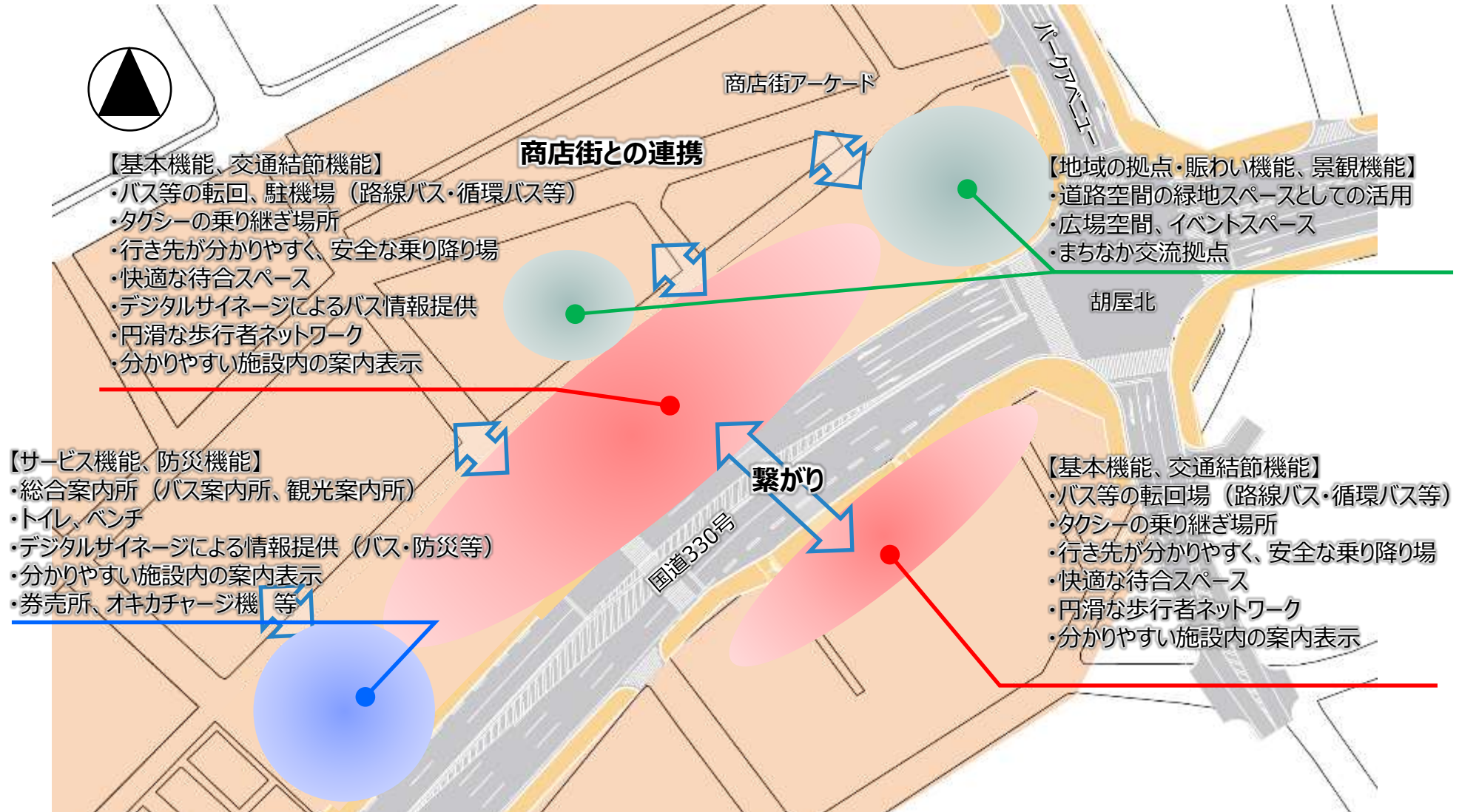


5. 基本構想

バスターミナル機能イメージ（案）

※イメージであり、決定されたものではありません。

- 沖縄市胡屋・中央地区のバスターミナルイメージを以下に示します。



(1) バスターミナル整備における将来イメージ

① 商店街側から国道330号を望む

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(1) バスターミナル整備における将来イメージ

② 国道330号から商店街側を望む

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

①ゲート通り

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

② 沖縄アリーナ正面広場

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

③ 郵便局通り

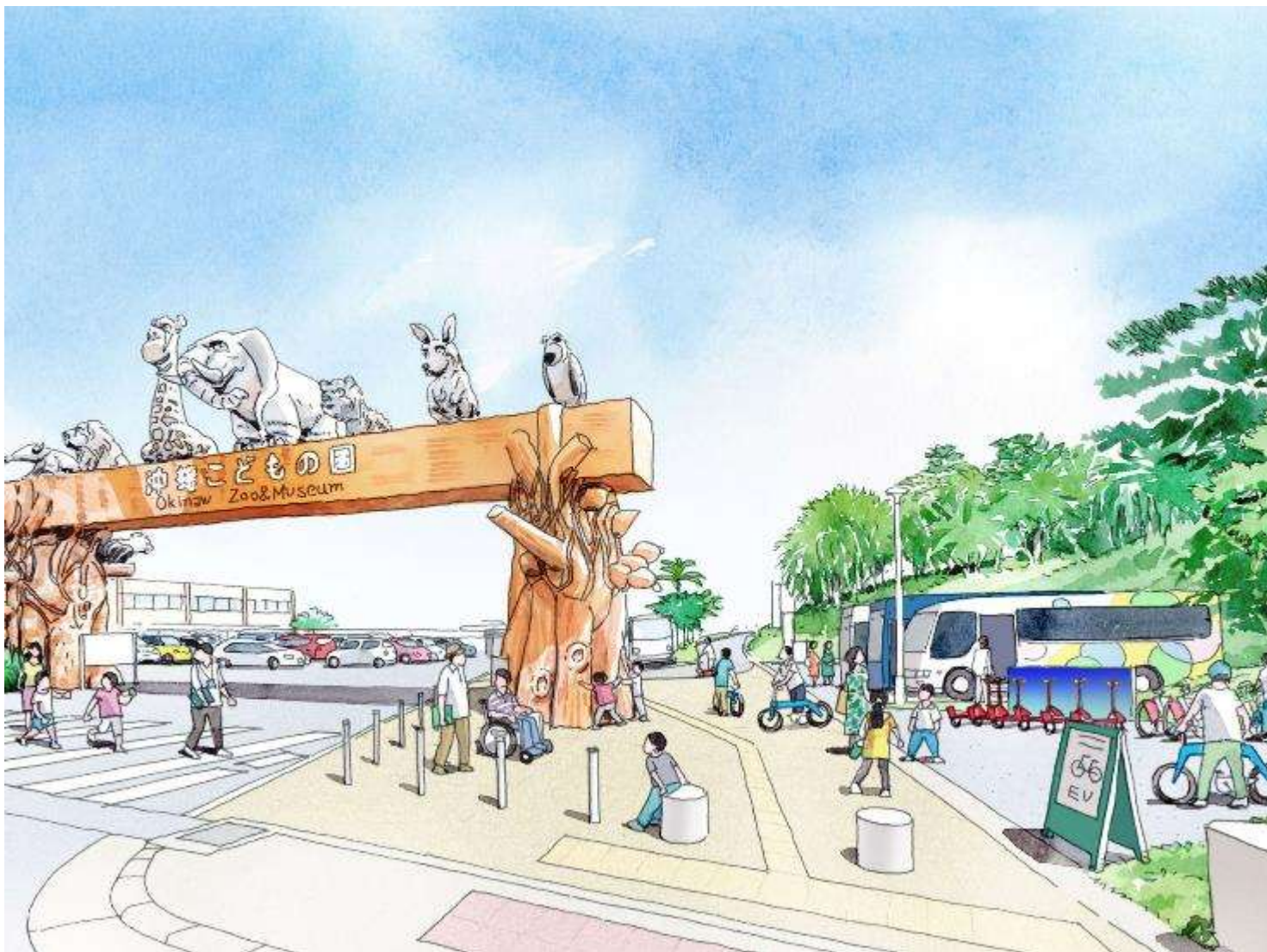
※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

④ 沖縄こどもの国メイン駐車場

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

⑤ 一番街商店街向かい

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

⑥ 中央パークアベニュー

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

⑦ 沖縄市役所前広場

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



(2) バスターミナル周辺の回遊性向上による将来イメージ

⑧コザ十字路広場

※パースはイメージであり、決定されたものではありません。



6. 基本構想の実現に向けて

6. 基本構想の実現に向けて

基本構想実現に向けた連携施策（案）

■ハード施策

【歩きやすい道路空間を創出する取組】

- センター中央通り線相互通行化事業
- ウォーカブルな道路空間づくり
- 交通安全対策 等

【安心して暮らせる場所を創出する取組】

- 土地区画整理事業（中の町地区、安慶田地区）等

【まちのにぎわいを創出する取組】

- アーバンスポーツパーク整備事業
- 沖縄こどもの国整備事業
- 優良建築物等整備制度導入検討事業（建物整備、駐車場等）
- 広場空間（交通広場、緑地スペース）の整備 等

■ソフト施策

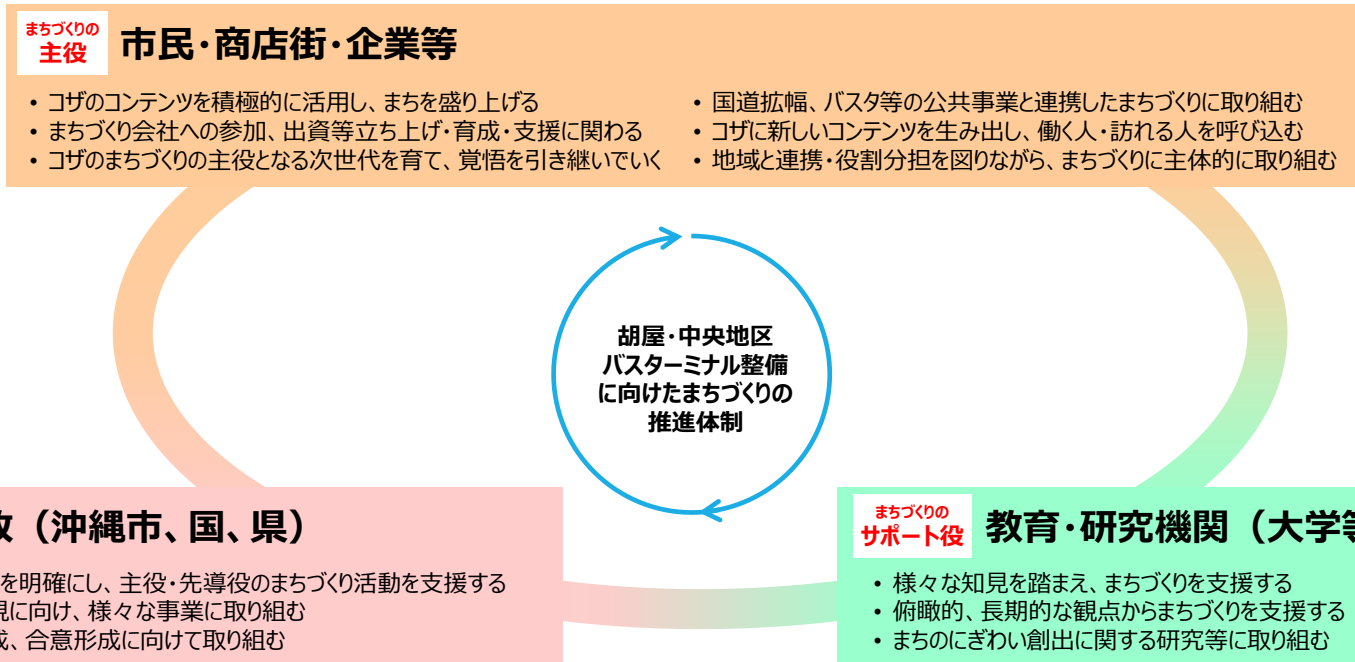
【利用しやすい公共交通、多様な移動手段に関する取組】

- 沖縄市循環バス事業（拠点をはな・中央地区バスターミナルへ移動）
- 観光バス・高速バスとの連携
- 施設間の回遊性向上（シャトルバス、循環バス、自転車等） 等

【まちのにぎわいを創出する取組】

- まちなか交流拠点の創出
- ウォーカブルエリアの設定・まちなかの回遊（歩いて楽しい空間づくり）
- 魅力ある商店街に向けた、商店街組織力等強化事業 等

推進体制（案）



基本構想実現に向けた連携施策（案）

